

英語力の評価及び入試における英語の資格・検定試験の活用に関する 連絡協議会の今後の方針(イメージ)

資料3

		26年度 (2014)		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	
学習指導 要領改訂 スケジュール (過去の改訂スケ ジュールを踏まえ て実施されれば)	小学校	英語 教育の 在り方 に 関する 有識者 会議	中教 審諮問	審議			全部 改訂 答申	周知・ 徹底	先行実施	新学習指導要領 小学校全面実施 中・高等学校は順次実施		
	中学校								周知・ 徹底			
高等学校	全部 改訂											
高大接続改革	接続 答申 高大	大学入学希望者学力評価テスト(仮称)／高等学校基礎学力 テスト(仮称)について具体的な検討を行う際には連絡協議会 での取組を参考に英語の資格・検定試験の活用の在り方も含め検討					29年度～ 実施に向けた準備		31年度～34年度 高等学校基礎学力テスト(仮称)試行実施		32年度～ 大学入学希望者 学力評価テスト(仮称)	

連絡協議会

12月初旬

年度内

情報発信

- ・ポータルサイト
- ・リーフレット作成 等
(活用事例共有 等)

調査研究

- ・入試の英語問題の調査・分析・改善
- ・各試験間のスコアバランス(対照表)
に関する検証・仕組みづくり
(27年:「英語教育改善のための英語力調査(フィジビリティー)
(高3生、中3生対象)」)

高大接続改革との連携

- ・「大学入学希望者学力
評価テスト(仮称)／
高等学校基礎学力テスト
(仮称)」に関する情報の
集約・提供等

連絡協議会設置

活用推進

英語力調査事業 (文科省)	4技能の調査・分析 ・高校3年生8万人 →	4技能の調査・分析 ・高校生(経年変化把握) ・中学3年生10万人(H27新規要求)	国際的な参照枠(CEFR)を活用して、生徒の 英語力および学習状況を把握・分析・検証 → 生徒の英語力の向上および教員の英語 指導改善へ
------------------	--------------------------	--	---

連絡協議会における当面の取組について(案)

日本人の英語力の現状を踏まえた
テスト開発の在り方

各試験間の得点換算・対照表の
作成及び活用等の検証の在り方

受験料負担など経済格差や
受験機会の地域格差による
機会の不均等の解消

- 4技能の英語力の調査・分析を実施
- 高校3年生8万人を調査
 - 「読むこと」「聞くこと」はA1上位からA2下位に集中

連絡協議会での議論の論点:
・民間の資格・検定試験団体等のノウハウを活かして国と協働で実施する方策を検討できないか。

- ・各資格・検定団体等においてCEFRとの関係性を調査研究し公表
- ・データを基に、対照表を作成・情報提供

連絡協議会での議論の論点:
・目的・出題意図等が異なる複数の試験間での精度の高い検証には、相当なデータ等の裏付け・時間が必要ではないか。
・団体等が既に実施している検証状況について積極的に情報提供を行ってはどうか。

- ・受験料は約2万円～7000円。各団体は独自の減額・補助制度等を実施。
- ・地域によって受験会場×実施回数の差は大きい。

連絡協議会での議論の論点:
・経済負担の観点から、新テストで英語4技能測定を行うことを前提とした方策も検討すべきではないか。
・公平性の観点から、学生生徒数に対する受験機会を確保するための方策の検討が必要ではないか。

民間の資格・検定試験を受験した
大学生の得点分布に関する
各団体からの情報提供

得点分布と活用レンジ
に関する情報収集

連携

各大学等の入学者選抜における民間の
資格・検定試験の活用方法についての
大学アンケート・事例研究・受験生意識調査

大学入試での活用
にあたっての促進・阻害要因の分析・
活用導入事例の情報収集

各試験団体における減額・補助制度等や
受験機会の確保の状況の把握・普及促進

受験料負担や受験機会確保に
ついての議論のための情報収集

高大接続システム改革会議において「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の具体的枠組みの提示

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)／高等学校基礎学力テスト(仮称)」等の英語試験に関する情報提供・議論

平成26年度

平成27年度(案)

28年度(案)

当面の取組について（案）

英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に評価できる学力検査等の在り方の検討や、各学校等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）との整合性を図ることを前提に、英語の資格・検定試験の活用を促進する。

当面、次の事項について協議し、これらの取組を進める。

1 英語の資格・検定試験及び活用促進に係る情報提供

4技能試験を行う試験団体から、学校、教員、学生生徒等に向けた試験に関する基本的な一覧性のある情報や、大学・高校・中学校における授業での活用や入学者選抜等における活用事例などを発信するため平成26年度に創設された「英語4技能試験情報サイト」ポータルサイトの運用改善等を通じ、情報提供の一層の促進を図る。

2 英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針のフォローアップ

4技能の総合的な育成及び評価の観点から、英語力の評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用の在り方、有効性及び留意すべき点についての具体的な指針として平成26年度に策定された、「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する行動指針」（平成27年3月17日連絡協議会決定）を踏まえたフォローアップを行う。

平成27年度は、各試験団体及び各大学における資格・検定試験活用の状況をフォローアップし、更なる活用に向けて調査研究及び今後の取組の在り方について意見交換等を行う。

（平成27年度フォローアップ等を行う事項の例）

- ・大学入試での活用にあたっての促進・阻害要因の分析
- ・活用導入事例の情報収集
- ・受験生の意識調査
- ・得点分布と活用レンジに関する情報収集 等

3 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）/高等学校基礎学力テスト（仮称）」の検討との連携

平成26年度に検討した、日本人の英語の能力の現状を踏まえたテスト開発の在り方、各資格・検定試験間の得点換算の在り方、受験料など経済格差の解消、受験機会など地域格差の解消等に関する検証結果等も参考にしながら、更なる意見交換や検討を行い、今後、高大接続システム改革会議への情報提供・議論につなげる。

4 大学及び高等学校入学者選抜における学力検査等の在り方の調査研究

学習指導要領に沿った英語の4技能を総合的に評価する学力検査等を奨励するため、協議会において現状の学力検査等における英語問題の在り方の調査・分析等を行い、その結果について広く情報発信等を行う。